

## 第2回「いしばし塾」 ほたる橋を架橋

「夢追橋のような橋を造っていただけませんか」NHKのディレクターから電話があったのは5月の末でした。一度は「無理です」と答えましたが、「どうしても」というので会員に相談し、急遽その準備をはじめました。夢追橋の場合、石150個を集めるのに約1と月かかりました。今回そんな期間もないので、吉井採石場の綿元社長さんをお願いしました。また、前はインターネットを使って『やってみよう人』を公募しました。その期間もありません。が「第2回いしばし塾」として何とか人集めをすることにしました。

6月1日には、和田さん、川崎さんと末永で、吉井採石場へ行き、山から崩したばかりの石約80個をいただいてきました。また、6月11日には、雨の中、和田さん、川崎さん、松園さん、前田さんと末永で溝掘りやテントの設置など準備を行いました。参加者もスタッフを合わせ10人ほどになりそうです。

6月12日(日)、当日は県下に警報が出るほどの大雨。NHKの方で取材が出来ないということで、当日の朝、1週間の延期を決定しました。



参加者とほたる橋

### 石の不思議を実体験

6月19日(日)この日も朝から雨。しかし13時には会場の曲川展望所に参加者が集まり始めました。塾生には長崎からの参加もいただきました。

末永から石橋の架橋技術についての講義(約20分)の後、早速アーチ石から積み始めました。(写真①)講義で知った「サインはV」を口にしながらの作業でしたが、なかなか石が定まりません。わずかな隙間に割石をはさみこんだりしながら、何とかアーチが出来たのが3時を回ったころでした。

一休憩の後、壁石を積み始めました。(写真②)今回の石橋は太鼓橋ではなく橋面を水平にしてみることにしました。アーチほどではないにしろこれも石選びが大変でした。最後に敷石を敷いて石橋の形が整いました。問題はこれから。支保工(土)を取り除きます。もし、アーチがうまくできていないと、橋は一瞬にして落ちてしまいます。緊張の中支保工が取り除かれ、アーチ型に石はとどまりました。そして溝には水を。

この後渡り初め。NHKが用意したテープカット(写真③)で、レポーターの山本さんが初渡り。その後次から次に参加者が渡り、「万歳」の声が曲川展望所に響きました。

参加者の皆さん、NHKのスタッフの皆さん、お疲れさま。

